

最低賃金引き上げ求める請願、またも不採択

特別職等の給与・報酬引き上げ、日本共産党議員団は反対

3月議会は22日、委員長報告の後、討論を行い、すべての議案を全会一致または賛成多数で可決しました。日本共産党議員団は提出された72議案のうち、新年度一般会計予算、市長、議員などの給与、報酬引き上げなど10議案に反対し、その他は賛成しまし

た。上越地区労連が提出した新潟県の「最低賃金の抜本的な底上げを求める」意見書の採択を求める請願書は、政新クラブ、日本共産党議員団、宮越議員の10議員が賛成したものの、他の議員は反対し、不採択となりました。こんなことでいいのでしょうか。

議案の採決の前に行われた討論では、日本共産党議員団の上野議員が新年度一般会計予算などの10議案について、反対理由を述べました。

このうち新年度一般会計予算について同議員は、災害対策での被災家屋等支援、木造住宅耐震化支援などは評価できるとしたものの、学校給食民営化推進、市民理解がない中での通年観光計画づくりなどは容認できないとして反対しました。また、市長や教育長、議員などの給与・報酬引き上げについては、市民の厳しい生活状況が続いている中で市民の理解は得られないとのべました。

「新潟県の『最低賃金の抜本的な底上げを求める』意見書の採択を求める請願に

ついては日本共産党議員団の平良木議員が賛成の立場で討論を行いました。

同議員は、文教経済常任委員会でこの請願に反対した議員の主張に全面的に反論する討論を展開しました。

同議員は、提出された請願は、若干引き上げられたとはいえ、新潟県の最低賃金が他都県と比べて異常に低いこと。そもそも普通に生活していくための必要生計費にも満たない金額であることを指摘し、その影響で特に非正規労働者の生活

破壊が深刻になっていることや中小零細企業の経営にも打撃を与えていることを憂慮している。そして、それらのことを受けて、地域ごとに異なる最低賃金を定めている現行の最低賃金法を改正するとともに、中小企業に対する支援の抜本的な強化を伴った最低賃金の抜本的引き上げを求め、その趣旨の意見書を当議会として国に提出することを求めている、としました。

そして、最低賃金の地域間格差などに言及、中小企業への支援と合わせて最低賃金を全国一律にした上で大きく引き上げることが必要だと訴えました。さらに、これは基本的に国の責任だとのべました。



農業の担い手などで要望

牧区で24日、馬場県議の議会報告会があり、私も報告させていただきました。

初めて参加された方が多く、県政や市政の動きに注目していただきました。

報告後の懇談では、昨年の干ばつ被害のことや今後の地域農業の在り方に関する質問やご意見が多く出されました。農業の担い手問題は何とかしなければなりません。



【ヒラヤマユキノシタ】ユキノシタ科の常緑多年草。名前の通り、ヒマラヤ山脈周辺が原産地。葉はキャベツに似ています。寒さに強く、雪国でも育てられます。花期は3月～4月。ピンク色の花を咲かせます。花言葉は、「秘めた感情」「忍耐」など。写真は3月23日、吉川区赤沢地内で撮影しました。

水墨画フェスティバルへ

高田のミュゼ雪小町で開催されていた水墨画フェスティバルへ行ってきました。作品の中にはこれまでの水墨画からは考えられないような独創的な作品もありました。柿崎区上下浜小学校児童の素敵な作品も観ました。鑑賞にあたっては、笹川春艸先生から直接、解説していただき、とても勉強になりました。



はしづめ法一の活動レポート

No.2151 2024.3.31
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL https://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七九八回 黄色い踊る花

早春の山踏み分けてマンサクの花くれし
夫若き笑顔で

先日、読売新聞の「歌壇」に載った短歌です。私は、短歌や俳句を作ることはせず、全くの素人なのですが、読んだとき思わず微笑んでしまいました。

作者は吉川区の山間部に住んでいた恵美子さん。エッセイや短歌をたくさん発表したことのある私の友人です。特に野の花についてのエッセイや介護短歌がすばらしく、多くの人に感動を与えてきました。

今回、「歌壇」に登場したマンサクの花は、野にある木の花の中では一番早く咲き、春の到来を告げる花として有名です。市内では、先月下旬から吉川区や蒲川原区などの山間部で開花しています。

「歌壇」に載った恵美子さんの歌を読んだ数日後、恵美子さんに直接電話して歌でとりあげたマンサクの花やお連れ合いの様子などを訊（き）きました。

歌の最後は「若き笑顔で」と結んであるので、かなり昔のことを詠んだものだとは思っていましたが、このマンサクが五十年前前に見た花のことだったというには驚きました。

恵美子さんは二二歳で結婚、その後、二人の子どもを産み、関東地方から吉川町（当時）にやってきました。非農家出身であつたことから、ナスやキュウリなど野菜が育つ様子も見ることがなかったし、作ったこともありませんでした。山野に咲く花は見たことのないものがほとんどだったといひます。もちろん、マンサクも……。

マンサクは早春、黄色の花を咲かせます。その花の形はじつに個性的です。四枚の赤い萼（がく）の内側に細長い黄色の花びらが楽しそうに踊っているのです。私は子どもの頃からマンサクの花を知っていますが、これほどユニークでかわいい花はその後、出会ったことがありません。

恵美子さんのお連れ合いであるYさんが恵美子さんを連れて山に入り、マンサクの花を見たのは結婚して数年後の三月上旬頃だったそうです。どこの山だったか、よく覚えていないとのことでしたが、お聴きた話を総合すると、東田中地区から源地区につながる標高数十坪の山のどこかだと思ひます。

Yさんが若き妻にマンサクの花を見せたくて目指した場所は、おそらく、Yさんが何度か花を見たことがある場所に違いありません。誰でも同じだと思ひますが、毎年見ていると、新しい年には咲いているかどうか心配になります。だから、雪の残る山に登っていき、黄色の踊る花を見つけた時はうれしかったでしょうね。

恵美子さんによると、Yさんは、「これがマンサクだや」と花が咲いた枝を折つて、恵美子さんに渡したそうです。恵美子さんにとっては初めて見るマンサクの花です。雪の中で踊るこの花を初めて見たときは大喜びでした。

Yさんは、その後もホオノキの白い大きな花やピンク色のネムノキの花も恵美子さんに教えてくれたそうです。元々、Yさんは野の花が好きだったのでしょうね、採ってきた花は湯飲み茶わんに入れて飾っていたこともあつたとか。

でも、五十年前のことを何で今頃思い出したのか。恵美子さんに訊くと、Yさんがマンサクの花を渡してくれたのはそのときの一引きりだったというのです。だから、強く印象に残つたんですね。

Yさんはその後、長い病院生活に入り、二〇年前に六〇歳で亡くなりました。マンサクの花をくれた若い夫の笑顔を思い出した恵美子さんは、最近、夫と杉起こしをした春のことも思い出し、歌にしました。二人して雪に倒れた若杉を起す向こうに山桜咲く

吉川区内でコウノトリが巣作り

吉川区内でコウノトリのつがいが電柱のてっぺんに巣作りを始めています。このうちオスは2020年4月9日、兵庫県豊岡市生まれです。東北電力はつがいを守るために工事を行います。静かに見守り、赤ちゃん誕生につなげたいものです。写真はSさん撮影です。

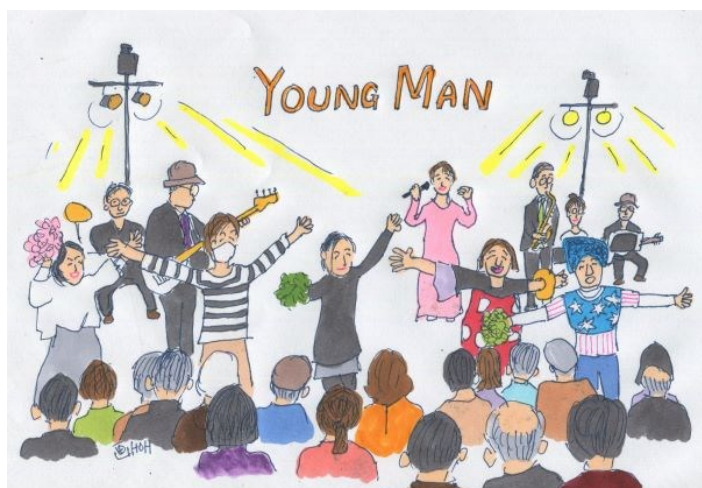


上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	3月20日(水)	3月27日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.050	0.040
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.060	0.070
東頸消防署	0.047	0.043
名立分遣所	0.057	0.060
高士分遣所	0.047	0.047

歌って踊って能登半島地震被災地支援



頸北のコミュニティバンド、「ピマス」(代表内山雅子さん)がこのほど、能登半島地震被災地支援のコンサートを柿崎コミュニティで開催しました。コンサートでは懐かしの歌が次々と歌われ、踊りも出ました。義援金は14万円ほど集まりました。(一部地域は既報)